

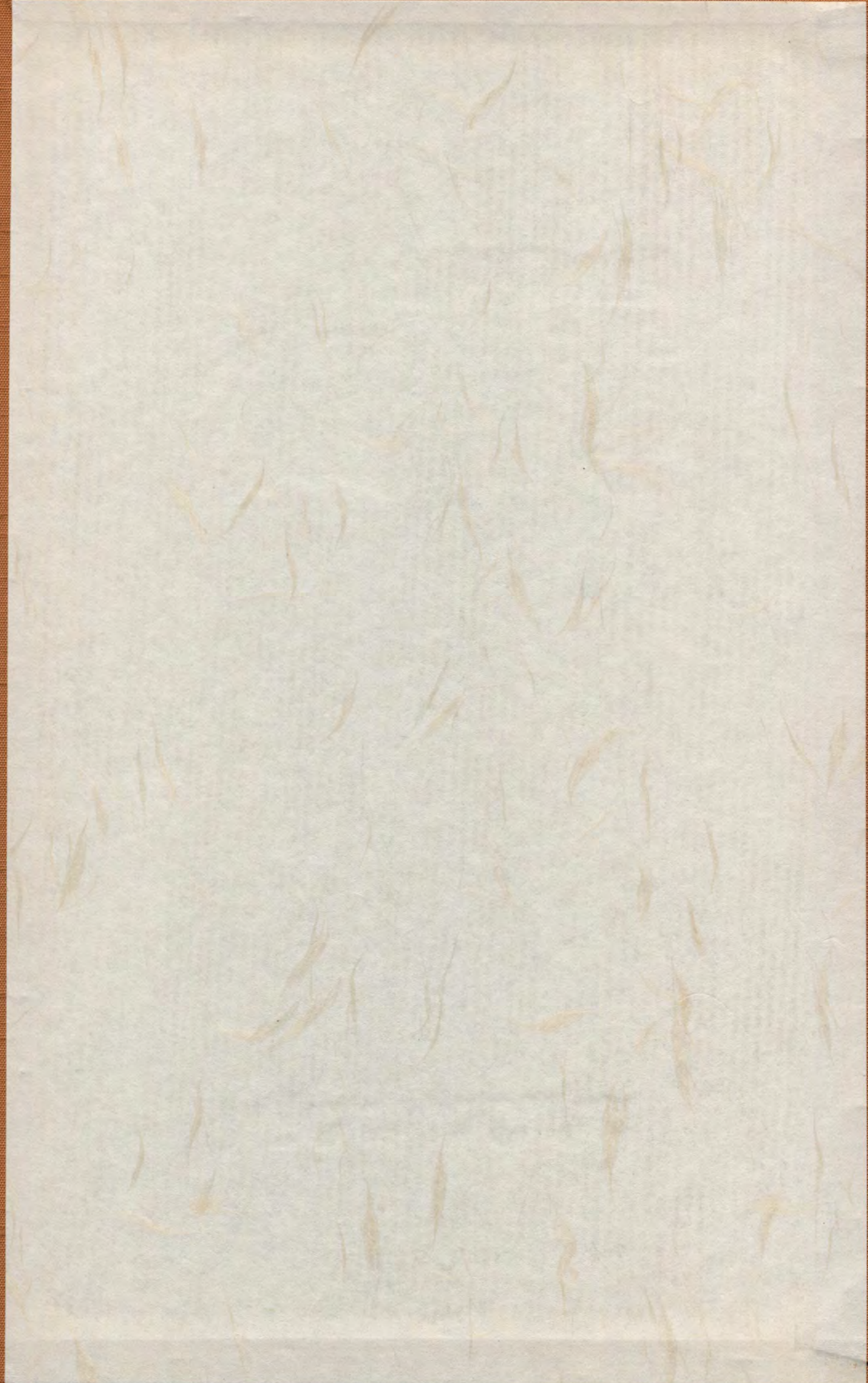


創立60周年記念

軌跡



大東文化大学



創立60周年記念

軌 跡

大東文化大学

高 風
德 輝

青山文雄



大東文化大学校歌

作詞 谷 鼎
作曲 信時潔

一 流れはゆるぎなく 東洋の

古き鑑を温めては

知新の實を かせねむと

日夜にはげむ われらあり

心は放て 天地間

まがよはせらせ 世の移り

濁濁の浪 高くとも

稗き水脈は もがれず

起ちて護らむ 大東文化

起ちて弘めむ 大東文化

二 あしたに思ふ 遠き道

ゆうべにみづく わが睿知

採長補短 ゆるぎなく

国のもとに 誰が負う

ああ東洋の この文化

負ひてやまへむ 日本の

不滅の光り 掲ぐべき

若き力は こゝにあり

起ちて護らむ 大東文化

起ちて弘めむ 大東文化

60周年記念日を迎えて

理事長 大西 経信



本学の母胎である大東文化学院が、東京・九段の地に設立を見てから、この9月20日は満60周年の記念日に当たります。

その創設は第46回議会の「漢学振興に関する建議案」の決議に由来し、国費をもって賄うという、極めて異色な6年制の専門学校でありました。

その建学の理念とすところは、わが国の思想・文化の中心であった儒学の振興を計ると共に、東洋固有の文化を出発点として、西洋文化を探求、吸収し、もって世界文化の創造に寄与することにあります。

昭和20年3月30日、当時、九段から池袋に校舎を移していた学院は、B29の空襲によりその持てる総てを失い、さらに終戦とともに、国の助成金も打ち切りとなりました。本学の経営の長い苦闘はここから始まりました。焼跡から酒井伯邸へ、そして青砥校舎へと授業を絶やすことなく、真摯な努力が続けられました。とくに昭和24年には、極めて困難な条件の中で、新制大学に昇格をし、池袋旧校舎に復帰しました。昭和36年9月には、現在の板橋高島平に移転を行ないましたが、その当時の大学は、1学部・3学科、学生数500名という小さなものでありました。その後、逐次学部、学科の増設を計り、それに付随して、施設・設備も拡張されました。42年開設した東松山校舎はその顕著なものであります。今日における本大学の組織・規模は、4学部・9学科、大学院博士課程3、修士課程5、学生数も8,600名を数え、人文社会科学系の総合大学としての整備がなされております。

今日、社会の大学に対する評価は極めて厳しいものがあります。このため各大学は、その質的向上に多大の努力を払っております。本学もこの創立60周年を契機として、10か年計画を策定し、目下着々とその実績をあげております。この計画の企図するところは、東松山校舎を中心として教育施設の拡充整備を行ない、これによって、優れた教育環境をととのえ、本学がその真価を世に問うための体質転換を図ることにあります。

建学の先覚者達が求めたものは、今日最も渴望されているものであり、世界の客観情勢は、その機の熟していることを示しています。今、私たちは、この歴史の流れを感得するとともに、人類の発展と、幸福のために、本学に負荷された使命を痛感するものであります。

終りに、関係各位の本学園に対するこれまでのご協力に心から感謝いたしますとともに、今後一層のご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

創立60周年にあたりて

学 長 清 原 道 壽



今から60年前の9月20日、本学の前身である大東文化学院の設立が認可され翌年、開院式が行われた。ここに本学の前身である大東文化学院が、東洋文化の振興を目的とする高等教育機関として発足したのである。

このように創設された大東文化学院は、日本文化の基幹をなす東洋の思想・文化を研究教育して、その振興につとめて道義を昂揚し、さらに東洋文化を基盤とし、西洋文化の粹をとってその短を補い、東西の文化を融合した新たな文化の創造を行いうるような人材の育成を、建学の理念とした。

この建学の理念は、その後60年にわたって継承され、研究と教育が続けられてきた。しかし60年という歳月は、日本の社会が激動の歴史であったことを反映し、本学の歴史にとって決して坦々とした道でなかった。とくに第2次世界大戦後の数年間の本学は、存亡の危機に直面した。そうしたなかで、同窓会の人たちのなみなみならぬ努力によって、大学は漸次復興していった。

昭和37・38年を期にして、本学はその規模を拡大しはじめ、それから10年間に2学部3学科から4学部9学科、それに大学院を併設した文科系総合大学となり、その教職員数・学生数・施設設備は著しく拡大したのである。そして、本学の使命は学則にしめすように、さきあげた建学の理念に基いて、真理と正義を愛する自主的精神に充ちた良識ある人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献するところにある。こうした使命を達成するためには、今後さらに教育および研究面における質的充実を図る必要がある。

それでは、大学の質的向上、その中心をしめる研究と教育の質的充実はどうすればできるか。研究と教育の物的諸条件の整備・充実は当然のことであるが、さらに研究と教育の主体である教員・学生の自覚が最も必要である。いいかえると、教員は明確な専門家意識をもつ研究者であり、学生は専門教育を受ける学習者であることを、それぞれ主体的に自覚して行動しなくてはならない。

現在、今後の大学に対する社会環境のきびしさが予想される。創立以来60周年を迎える本学が、今後のきびしい状況を切りぬけて発展を続けるためには、建学の理念にもとづいて、現在の本学の量的拡大を質的向上に転換し、とくに研究と教育の質的充実に努めなくてはならない。

60年のあゆみ

学院の創立

大東文化大学の前身、大東文化学院設立の淵源は、大正10年の貴衆両院による「漢学振興に関する建議案」の決議に由来する。

この建議に関連して、議会はさらに二度にわたって漢学振興の実施および予算措置の要請について決議した。この間に、漢学振興運動の推進者達は、運動の推進母体として大東文化協会を設立した。

これ等一連の決議に基き、大正12年度追加予算において、大東文化協会に対する事業費補助金として15万円の支給が決定された。ちなみに、当該年度における全国私立大学に対する補助金総額は17万5千円であった。翌13年度の予算では、両者はまったく同額となっている。以後、協会に対する補助金は引続き交付された。

右の経過を経て、大東文化協会はその運動の一環として、規約第1条2に「本邦現時ノ情勢ニ鑑ミ儒教ノ振興ヲ図リ及ヒ東洋文化ヲ中心トスル大東文化学院ヲ設立維持スルコト」とある趣旨に基き、大正12年9月20日に大東文化学院を創立した。

創立の理念

大東文化学院の創立に至る出発点となった「漢学振興ニ関スル建議案」及び「附属理由書」の内容は次の如くである。

漢学ハ古来我が邦ノ文化ニ貢献シ国民思想ノ涵養ニ資益セシ所大ナルモノアリ。而シテ今後亦之ニ待ツ所少シトセズ。之ガ振興ノ途ヲ講ズルハ刻下ノ急務ナリトス。依テ政府ハ之ニ関シ適当ノ方法ヲ施サシムコトヲ望ム。右建議ス。

理由書

漢学ガ古来我が邦ノ文明ニ貢献シ国民思想ノ上ニ資益セシコトノ大ナルハ言ヲ要セザル所ニシテ今後亦之ニ待ツ所少カラザルモノアリ。然ルニ一タビ西洋文芸ノ伝来スルヤ人々之レニ走ルニ急ニシテ漢学ハ疎ンゼラレ其ノ神髓ヲ視フコト漸ク難キニ至ラントス。今日ニ於テ振興ノ途ヲ講ズルハ実ニ急務ナリ。是レ本案ヲ提出スル所以ナリ。

ここに示されているところのものは、漢学を日本の文化・思想との関係において意味づけ、かつ危機感に裏打ちされた「漢学振興」の主張である。これは大東文化学院の創立に至る運動を支えた人々の共通した意識である。

また、この建議をめぐる議会演説、各種委員会等における論議、さらに大東文化協会の組織およびその活動、出版物、講演等について通観すると、次のようなより広い理念が示されている。

わが国は明治維新以来、欧米の文化を摂取することに努めてきた。いまや日本は東西文化の接点に位置するにいたり、それゆえに東西文化の融合によって世界の新しい文化の発展に貢献することは、日本の果すべき使命である。しかし東洋文化を代表する重要な一つ

である漢学の研究は、明治以来衰退の一途をたどってきている。したがって、このようなわが国の文化的使命を達成するために、さしあたってなすべき急務は、漢学を中心とする東洋学術研究の振興にある。

開校当時の学院

大東文化学院は、大正12年9月20日、麴町区富士見町6丁目16番地（いわゆる九段校舎）に設立された。越えて13年1月11日に第1回入学式を挙行し、ついで2月11日に開校式を行った。

学院には、本科3年課程と高等科3年課程が置かれた。政府からの豊かな補助金に支えられて、当時の学生は極めて優遇されていた。全学生に対し授業料が免除され、加えて、給費制度があり、高等科70円、本科25円の支給を受けた学生が多く存在した。

本科の卒業生には漢文科中等（旧制）教員、高等料卒業生には漢文科高等教員の無試験検定の資格が与えられた。後に卒業生は多方面に活躍するが、特に教育界に進むものが多かった。大学、旧制高等学校、陸海軍諸学校、師範学校等に奉職する者も続出した。

三部制の設置

学院は漢文専門校であったが、昭和13年に至り、三部制を設置した。

第一部修身漢文科 従来の漢文専門課程の名称変更であり、現在の中国文学科の前身である。

第二部国語漢文科 現在の日本文学科の前身である。

第三部東亜政経科 現在の経済学部の前身である。

この三部制の設置は、時代の要請に即した学院の発展策であった。同時に従来政府の助成に依存する性質であった学院の経営に、自律的方向を与えることにもなった。

池袋校舎への移転と戦時下の学院

三部制の設置に伴い、拡大した学院は、新校舎を豊島区池袋3丁目1,385番地に建設し、昭和16年2月8日に移転した。

しかしながら、すでに戦争の惨禍は目前に迫っていた。12月8日太平洋戦争への突入と共に、学生達の平常の学業生活は次第に圧迫されていった。また学院の機能も暫次失われるに至った。

昭和20年4月13日夜半、米軍による東京大空襲によって、学院の校舎はもとより、貴重な図書、資料等そのすべてを焼失した。

池袋校舎への発展的移転後わずか4年にして、すべてを烏有に帰してしまったのである。

戦後の状況と新制大学への移行

戦禍による一切の焼失と、戦後の社会的混乱の中で、学院は厳しい状況に置かれた。一時は総長酒井忠正郎を拝借して授業が行われた。次に青砥校舎に転じ、池袋の旧校地に校舎を新築して復帰することができたのは、実に昭和24年10月のことであった。

またこの年の4月20日に、学院は新制大学への昇格が

認可された。校名を東京文政大学とし、文政学部、日本文学専攻・中国文学専攻・政治経済学専攻の一学部三専攻の編成となった。28年3月に至り、校名を大東文化大学と改めた

飛躍発展期

昭和35年に至り、創立40周年（38年）記念振興計画が樹てられた。これを契機として、次の50周年（48年）までの間に、大学は急速に拡大した。昭和36年に旧池袋校舎から現在の板橋校舎へ移転し、次いで42年に東校山校舎（教養課程）が新設された。また現在の学部、学科および大学院のほとんどは、同じくこの期間に次の如く新設或は増設された。

文学部 昭和37年4月開設

日本文学科 昭和37年4月

中国文学科 昭和37年4月

英米文学科 昭和42年4月

(外国語学科)昭和43年4月

(昭和46年4月に外国語学部へ改編)

教育学科 昭和46年4月

経済学部 昭和37年4月開設

経済学科 昭和37年4月

経営学科 昭和38年4月

外国語学部 昭和46年4月開設

中国語学科 昭和46年4月

英語学科 昭和46年4月

法学部 昭和48年4月開設

法律学科 昭和48年4月

大学院

文学研究科

修士課程 日本文学専攻 昭和39年4月

中国学専攻 昭和39年4月

博士課程 中国学専攻 昭和42年4月

日本文学専攻 昭和47年4月

経済学研究科

修士課程 経済学専攻 昭和47年4月

ここに四学部九学科、大学院、二研究科の体制が成立するに至った。

創立50周年から60周年への道程

昭和48年から本年に至る10年間は、前項の「飛躍発展」期とは、その性質を異にする時期であった。

創立50周年を期して法学部が新設されて以来、今日までの間に、学部、学科の新設、増設はまったく行われていない。かわって、次の諸点が増設の特徴として挙げられる。

a. 教員と学生との数と比率

ここでは比較の合理性を求めて、最後に新設された法学部の完成年である昭和51年度と、57年度の専任教員数と学生数を、それぞれの年度に文部省に報告された大東文化大学の学校基本調査によって比較する。

これによってみると、専任教員数は、51年度214名、57年度は278名、従って64名の増加となった。これに対し、学生数は、51年度10,585名、57年度は8,480名、従って学生数は2,505名の減少となっている。これを専任教員1人当りの学生数の割で計算すると、51年度は教員1人当たり約50名であるのに対し、57年度に於ては、約31名と激減している。このことは明らかに教育密度の向上を示すものである。また、2,105名にのぼる学生数の減少は、学生定員に近づけようとする大学の努力の現われであった。なお、昭和58年度より学部定員が総数1,450名から1,880名となった。文学部・日本文学科(250)、中国文学科(150)、英米文学科(130)、教育学科(100)。経済学部・経済学科(450)、経営学科(300)、外国語学部・中国語学科(120)、英語学科(180)。法学部・法律学科(200)。

b. 大学院の発展

この期間における特徴の一つは、大学院の充実にある。昭和52年4月1日に、大学院法学研究科、法律学専攻、修士課程が開設された。ついで、昭和53年4月1日に、文学研究科、英文学専攻、修士課程が増設された。また同日をもって、経済研究科は、経済学専攻、博士課程(後期)を増設した。

この大学院の開設、増設に伴って、昭和55年5月に、地下1階、地上10階の研究管理棟が板橋校地内に建設された。

c. 海外研究研修活動

昭和51年4月には、大東文化大学専任職員海外出張規則及び同施行細則が制定され、従来内規或は慣習的に行われていた教職員の長期・短期の研究、研修活動が明確に制度化された。この制度は更に整備強化が加えられ、その後は恒常的に教職員の海外派遣がなされており、一方では中国・北京外国語学院、オーストラリア・グリフィス大学との交流協定を結ぶなど、国際社会への対応を計っている。

以上のごとく、この期間に、大学の教育、研究面の内面的充実において、際立った足跡を残している。

大東文化大学は、本年の9月20日を以て創立60周年を迎えるが、これに先立って、既に60周年記念事業の推進を軸に、長期的展望にもとづく、長期計画が検討されている。

新しい時代への胎動は、すでに開始されている。

略年譜

年 月	事 項
1917	
大正6	東洋文化振興の議、有識者の間に起る
" 7	木下成太郎・佐久間啓莊氏等、東洋文化振興に関し原内閣に意見書を提出
" 9・11	奥繁三郎氏主催により貴衆両院議員有志及び学者による「東洋文化振興に関する集会」を衆議院議長室で開く
" 10・3	「漢学振興に関する建議案」を衆議院に提出、衆議院満場一致可決
" 12・2	大東文化協会設立
" ・3	みたび「漢学振興に関する建議案」を衆議院に提出。10か年間 175万円政府補助の条件で同案可決
" ・4	大東文化協会事務所を神田錦町3丁目10番地東京工科学校内に置く
" ・9	学院用地及び校舎を法政大学より買収財団法人設立の許可及び大東文化学院専門学校（但し校名は大東文化学院）設立認可（本科3年、高等科2年）
" ・11	校舎並びに事務所を麴町区富士見町6丁目16番地に置く
" 13・2	学院開院式
" ・11	本科卒業生に中等教員漢文無試験検定認可
" 14・9	高等科の修業年限を3年に延長の学則改定認可
" 15・8	高等科卒業生に漢文科高等教員無試験検定認可
1929	
昭和4・7	第1回支那旅行団出発
" 5・9	創立7周年記念式典に於いて国分青崖翁漢詩を草し学院に贈る。学院歌の起源
" 7・10	校旗並びに学院歌の披露
"	創立10周年記念式典挙行
" 9・1	日本儒教宣揚会発会式
" 13・2	本科を第1部修身漢文科、第2部国語漢文科、第3部東亜政経科に学則改正認可
" 16・2	豊島区池袋3丁目1385番地の新校舎竣工、移転
" 19・3	校名を「大東文化学院専門学校」と改称
" 20・4	空襲により校舎焼失

年 月	事 項
1945	
昭和20・5	酒井伯爵邸に於いて授業再開
" 21・2	葛飾区青砥町4番地に校舎移転
" 23・5	校歌廃止
" 24・4	学制改革により新制大学に移行し、校名を東京文政大学（文政学部・中国文学科・日本文学科・政治経済学科）と改む
" ・5	財団法人大東文化協会を財団法人東方文化協会と改称
" ・10	池袋の旧地に新校舎竣工復帰
" 26・2	財団法人東方文化協会を学校法人東京文政大学に組織変更
"	文政大学に校名変更
" 28・3	校名を大東文化大学に改め、法人名を学校法人大東文化大学と改称
" ・9	新校歌発表
" 29・2	大東文化研究所設立
" ・4	附属中央柔道整復師養成所開所
" 31・2	文政幼稚園設立認可
" 35・6	法人名を学校法人大東文化学園と改む
" ・9	附設大東柔道整復専門学校の設立認可を得
" 36・4	大東医学技術整復専門学校に改称、衛生検査新設開講
"	大東文化研究所を東洋研究所と改称
" ・8	大東文化大学第一高等学校の設立認可を得、現在地の板橋区高島平に新校舎なり移転
" 37・1	学部増設、文学部（日本文学科・中国文学科）・経済学部（経済学科）の認可を得
" ・4	大東文化大学第一高等学校開校。文学部・経済学部開講
" ・12	経済学部経営学科増設の認可を得
" 38・4	経済学部経営学科開講
" 39・3	大学院文学研究科（日本文学専攻・中国学専攻）修士課程開設
" 41・12	文学部英米文学科増設
" 42・3	現在地の埼玉県東松山市に教養課程を移設
" ・4	大学院文学研究科（中国学専攻）博士課程開設
" ・6	大東医学技術整復専門学校を大東医学技術専門学校と改称

年 月	事 項
1967	
昭和42・12	文学部外国語学科増設
" 44・4	書道文化センター設立
" 47・1	外国語学部（中国語学科・英語学科）設置、文学部教育学科増設
" ・3	大学院経済研究科（経済学専攻）修士課程開設。 大学院文学研究科（日本文学専攻）博士課程開設
"	学校法人盈進学園と合併（吸収）
"	大東文化大学附属青桐幼稚園設置認可
"	現在地の板橋区高島平に新設
" 48・2	法学部（法律学科）設置。現開設の4学部9学科になる (学部定員数 計1,250名)
" ・4	東松山校舎5号館竣工
"	法学研究所設立
" ・10	法学研究所現在地の千代田区神田駿河台下に開設
"	創立50周年記念式典挙行、板橋校舎敷地に50周年記念館竣工
" 49・4	大東医学技術専門学校、現在地の板橋区高島平に新校舎なり移転
" 50・5	孀恋ゼミナールセンターを現在地の群馬県吾妻郡孀恋村に新設
" 51・4	学部学科の定員増認可（定員数 計1,450名）情報処理センター設立
" ・9	学校教育法の改正に伴ない大東医学技術専門学校が専修学校として認可
" ・10	大東文化大学第一高等学校創立15周年記念式典挙行
" ・12	大東文化会館、現在地の板橋区徳丸に竣工

年 月	事 項
1977	
昭和52・4	大学院法学研究科（法律学専攻）修士課程開設
" 52・7	盈進学校の設置者変更（分離）
" ・12	文政学専攻科を改組し現開設の文学専攻科、日本文学専攻・中国学専攻・経済学専攻（修業年限1年・各定員10）認可
"	現開設の別科日本語研修課程（修業年限1年・定員20）認可
" 53・3	大学院経済学研究科（経済学専攻）博士課程増設認可。文学部研究科英米文学専攻修士課程増設認可、大学院経済学研究科修士課程定員増認可、大学院は現開設の3研究科5専攻となる
" 55・5	板橋校舎敷地に研究管理棟竣工
" ・7	中国・北京外国語学院と人的交流協定締結
" 56・4	経理研究所設立
" 57・4	オーストラリア・グリフィス大学と学生交換を中心とした調印
" ・9	大東文化大学第一高等学校創立20周年記念挙行
" ・12	宮鼻総合運動場を現在地の東松山市宮鼻に造成
" 58・1	3学部6学科定員増認可、文学部 630名経済学部 750名外国語学部 300名法学部 200名（定員数 計1,880名）
" ・4	語学教育研究所設立
" ・6	東松山校舎の校地・校舎拡充に着手（開発認可）

現況 学園教職員数

区 分		教 職 員			教 員			職 員			
		合 計	専任計	非常勤計	小 計	専 任	非常勤	小 計	専 任	非常勤	
部 別											
総 合 計		計 男女	874(5) 708(4) 168(1)	591(5) 455(4) 136(1)	283 251 32	614(5) 543(4) 71(1)	343(5) 301(4) 42(1)	271 242 29	260 163 97	248 154 94	12 9 3
学 部	合 計	計 男女	483(5) 431(4) 52(1)	264(5) 235(4) 29(1)	219 196 23	483(5) 431(4) 52(1)	264(5) 235(4) 29(1)	219 196 23	0 0 0	0 0 0	0 0 0
	文 学 部	計 男女	252 219 33	117 101 16	135 118 17	252 219 33	117 101 16	135 118 17	0 0 0	0 0 0	0 0 0
	経 済 学 部	計 男女	113 109 4	76 73 3	37 36 1	113 109 4	76 73 3	37 36 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0
	外 国 語 学 部	計 男女	70(5) 56(4) 14(1)	42(5) 33(4) 9(1)	28 23 5	70(5) 56(4) 14(1)	42(5) 33(4) 9(1)	28 23 5	0 0 0	0 0 0	0 0 0
	法 学 部	計 男女	48 47 1	29 28 1	19 19 0	48 47 1	29 28 1	19 19 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
創 立 60 周 年 記 念 事 業 事 務 局		計 男女	5 4 1	3 3 0	2 1 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	5 4 1	3 3 0	2 1 1
東 松 山 キ ャ ン パ ス 室 開 発 本 部 ・ 開 発 室		計 男女	2 2 0	2 2 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2 2 0	2 2 0	0 0 0
事 務 機 械 化 開 発 室		計 男女	1 1 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 1 0	1 1 0	0 0 0
事 務 局	合 計	計 男女	112 77 35	108 73 35	4 4 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	112 77 35	108 73 35	4 4 0
	局 (次) 長	計 男女	1 1 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 1 0	1 1 0	0 0 0
	企 画 調 査 室	計 男女	5 3 2	5 3 2	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	5 3 2	5 3 2	0 0 0
	総 務 部	計 男女	27 12 15	27 12 15	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	27 12 15	27 12 15	0 0 0
	財 務 部	計 男女	13 8 5	13 8 5	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	13 8 5	13 8 5	0 0 0
	管 理 部	計 男女	30 26 4	27 23 4	3 3 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	30 26 4	27 23 4	3 3 0
	東 松 山 事 務 部	計 男女	36 27 9	35 26 9	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	36 27 9	35 26 9	1 1 0
	学 務 部	計 男女	72 43 29	71 42 29	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	72 43 29	71 42 29	1 1 0
	局 長	計 男女	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
	教 務 部	計 男女	40 25 15	40 25 15	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	40 25 15	40 25 15	0 0 0
学 務 局	学 生 部	計 男女	18 8 10	17 7 10	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	18 8 10	17 7 10	1 1 0
	就 職 部	計 男女	8 6 2	8 6 2	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	8 6 2	8 6 2	0 0 0
	広 報 室	計 男女	4 3 1	4 3 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	4 3 1	4 3 1	0 0 0
	国 際 部	計 男女	2 1 1	2 1 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2 1 1	2 1 1	0 0 0
	合 計	計 男女	51 33 18	50 32 18	1 1 0	7 7 0	7 7 0	0 0 0	44 26 18	43 25 18	1 1 0
	図 書 館	計 男女	25 10 15	25 10 15	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	25 10 15	25 10 15	0 0 0
	東 洋 研 究 所	計 男女	8 8 0	8 8 0	0 0 0	7 7 0	7 7 0	0 0 0	1 1 0	1 1 0	0 0 0
大 学 附 置 機 関	法 学 研 究 所	計 男女	2 2 0	1 1 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2 2 0	1 1 0	1 1 0
	経 理 研 究 所	計 男女	1 1 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 1 0	1 1 0	0 0 0
	語 学 教 育 研 究 所	計 男女	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
	書 道 文 化 セ ン タ ー	計 男女	4 3 1	4 3 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	4 3 1	4 3 1	0 0 0
	情 報 処 理 セ ン タ ー	計 男女	5 4 1	5 4 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	5 4 1	5 4 1	0 0 0
	体 育 セ ン タ ー	計 男女	6 5 1	6 5 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	6 5 1	6 5 1	0 0 0
	第 一 高 校	計 男女	71 63 8	56 49 7	15 14 1	61 61 0	47 47 0	14 14 0	10 2 8	9 2 7	1 0 1
	青 桐 幼 稚 園	計 男女	13 3 10	13 3 10	0 0 0	10 1 9	10 1 9	0 0 0	3 2 1	3 2 1	0 0 0
医 専	計 男女	60 46 14	20 13 7	40 33 7	53 43 10	15 11 4	38 32 6	7 3 4	5 2 3	2 1 1	
厚 生 セ ン タ ー	計 男女	3 2 1	3 2 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	3 2 1	3 2 1	0 0 0	
安 全 互 助 会	計 男女	1 1 0	0 0 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 1 0	0 0 0	1 1 0	

現況 在籍学生数

部別		学年		合 計	1 年	2 年	3 年	4 年
		性 別	計					
学部・大学院・専攻科		計		8,738	2,389 [115]	2,163 (125)	1,771	2,415 (122)
別科合計(A)+(B)+(C)+(D)		計		6,924	1,892 [115]	1,770 (118)	1,386	1,881 (117)
		男女		1,814	497	393 (7)	385	534 (5)
大 学 計		計		8,613	2,327 [115]	2,106 (125)	1,765	2,415 (122)
		男女		6,827	1,848 [115]	1,717 (118)	1,381	1,881 (117)
		男女		1,786	479	389 (7)	384	534 (5)
文 学 部	計	計		3,142	773 [31]	753 (45)	613	1,003 (38)
		男女		1,886	448 [31]	478 (41)	336	624 (35)
		男女		1,256	325	275 (4)	277	379 (3)
	日 本 文 学 科	計		1,472	386 [19]	333 (17)	308	445 (17)
		男女		829	208 [19]	201 (16)	160	260 (16)
		男女		643	178	132 (1)	148	185 (1)
	中 国 文 学 科	計		572	155 [2]	137 (10)	99	181 (6)
		男女		348	86 [2]	89 (10)	55	118 (5)
		男女		224	69	48	44	63 (1)
	英 米 文 学 科	計		563	132 [1]	175 (13)	94	162 (12)
男女			385	89 [1]	123 (10)	62	111 (12)	
	男女		178	43	52 (3)	32	51	
教 育 学 科	計		535	100 [9]	108 (5)	112	215 (3)	
	男女		324	65 [9]	65 (5)	59	135 (2)	
	男女		211	35	43	53	80 (1)	
経 済 学 部	計	計		3,138	959 [50]	763 (46)	684	732 (21)
		男女		3,029	923 [50]	745 (44)	660	701 (21)
		男女		109	36	18 (2)	24	31
	経 済 学 科	計		1,834	498 [29]	467 (25)	428	441 (15)
男女			1,775	478 [29]	458 (25)	416	423 (15)	
	男女		59	20	9	12	18	
経 営 学 科	計		1,304	461 [21]	296 (21)	256	291 (6)	
	男女		1,254	445 [21]	287 (19)	244	278 (6)	
	男女		50	16	9 (2)	12	13	
外 国 語 学 部	計	計		1,249	342 [17]	309 (16)	276	322 (27)
		男女		873	233 [17]	224 (15)	203	213 (25)
		男女		376	109	85 (1)	73	109 (2)
	中 国 語 学 科	計		518	134 [7]	154 (9)	103	127 (10)
		男女		367	97 [7]	113 (8)	74	83 (8)
		男女		151	37	41 (1)	29	44 (2)
英 語 学 科	計		731	208 [10]	155 (7)	173	195 (17)	
	男女		506	136 [10]	111 (7)	129	130 (17)	
	男女		225	72	44	44	65	
法 学 部	法 律 学 科	計		1,081	253 [17]	281 (18)	192	358 (36)
		男女		1,039	244 [17]	270 (18)	182	343 (36)
	男女		45	9	11	10	15	

※ 学部欄〔 〕内は第一高等学校からの進学者数で内数、()内は2年次留年および卒業延期者数で内数。

部 別		学 年		合 計	1 年	2 年	3 年	4 年	
		性 別	計						
大 学 院 計		計		91	28	57	6	-	
		男女		78	25	53	5	-	
		男女		13	3	4	1	-	
大 学 院	文 学 研 究 科	日 本 文 学 専 攻	博 士 前 期	計		18	6	12	-
			男女		15	5	10	-	
		博 士 後 期	計		3	1	2	-	
		男女		9	5	1	3	-	
		博 士 前 期	計		2	3	1	3	-
		男女		7	2	0	0	-	
	中 国 学 専 攻	博 士 前 期	計		9	2	7	-	
		男女		9	2	7	-		
	博 士 後 期	計		0	0	0	-		
	男女		7	1	3	3	-		
博 士 後 期	計		6	1	3	2	-		
男女		1	0	0	1	-			
英 文 学 専 攻	修 士	計		10	1	9	-		
男女		9	1	8	-	-			
	男女		1	0	1	-			
経 済 学 研 究 科	経 済 学 専 攻	博 士 前 期	計		15	5	10	-	
		男女		14	5	9	-		
	博 士 後 期	計		1	0	1	-		
	男女		3	2	1	-			
博 士 後 期	計		0	0	0	-			
男女		3	2	1	-				
法 学 研 究 科	法 律 学 専 攻	修 士	計		20	6	14	-	
男女		20	6	14	-	-			
	男女		0	0	0	-			
専 攻 科 計		計		5	5	-	-	-	
		男女		0	0	-	-	-	
専 攻 科	文 学 専 攻 学 科	日 本 文 学 専 攻	計		2	2	-	-	
		男女		0	0	-	-		
	中 国 文 学 専 攻	計		2	2	-	-		
男女		0	0	-	-				
経 済 学 専 攻 学 科	経 済 学 専 攻	計		1	1	-	-		
男女		1	1	-	-				
	男女		0	0	-				
別 科	日 本 語 研 修 課 程	計		29	29	-	-		
		男女		14	14	-	-		
	男女		15	15	-	-			

昭和58年5月現在

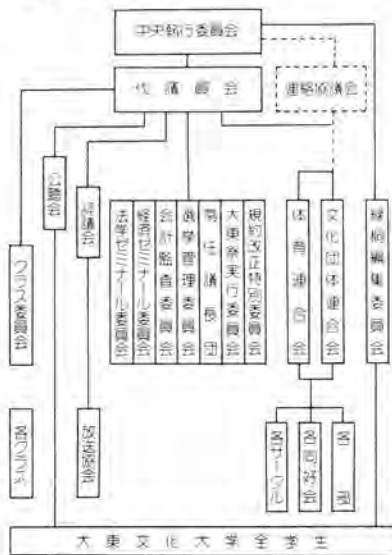
現況 留学生数など

部別 学年 国籍 性別	合計		大 学				大学院	専攻科 別科						
	計	男女	1年	2年	3年	4年			計	男女				
中華人民共和国	3	3	1	1	2	2								
中 華 民 国	60	35 25	11	8 3	13	8 5	6	3 3	12	11 1	18	5 13		
大 韓 民 国	20	15 5	7	6 1					1	1	1	1	11	9 2
トンガ王国	2	2				2	2							
タ イ	2	2	1	1					1	1				
香 港	2	2	2	2										
オーストラリア	1	1	1	1										
計	90	60 30	23	19 4	15	10 5	8	5 3	14	12 2	1	1	29	14 15

昭和58年5月現在

学生自治会組織図 所属団体

学生自治会組織図



文化団体連合会

《部》

E・S・S、映画研究会、会計学会、ギタークラブ、吟詠部、教育研究部、劇団“否”、国文学研究会、混声合唱団、児童文化研究部、写真部、タイプライター研究部、中国語研究部、中国文学研究部、日本文学研究部、日本民謡研究会、美術部、軽音楽部B・B・Q、ユースホステル研究会

《同好会》

劇団虚構、琴和道会、木曜短歌研究会、歴史学研究会

《サークル》

観光研究会、広告研究会、児童研究会、書道部、落語研究会、ラジオ研究会

体育連合会

《部》

アーチェリー部、合気道部、アイスホッケー部、アメリカンフットボール部、空手道部、体操部、弓道部、剣道部、硬式庭球部、ゴルフ部、サッカー部、自動車部、柔道部、少林寺拳法部、スキー部、スケート部、射撃部、卓球部、軟式庭球部、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部、ハンドボール部、フェンシング部、舞踏研究部、ボクシング部、ボート部、ボウリング部、硬式野球部、ヨット部、ラグビー部、陸上競技部、レスリング部、ワンダーフォーゲル部

《同好会》

ローバースカウト同好会、相撲サークル、軟式野球サークル

学園附属関係 在籍者数

学校別	性別	学年	計	1年	2年	3年
合計	計		1,653	715	534	404
	男女		1,336	588	407	341
第一高校	男		317	127	127	63
	計		1,039	447	267	325
附属 青桐幼稚園	計		246	4才児	5才児	
	男		116	127	119	
	女		130	54	62	
大東医学 技術専門 学校	医 専	計	368	141	148	79
		男女	181	87	78	16
	小 計	計	187	54	70	63
		男女	238	75	84	79
	臨 床	計	60	26	18	16
		男女	178	49	66	63
柔 道	計	130	66	64		
	男女	121	61	60		
整 復	計	9	5	4		

昭和58年5月現在

現況 蔵書数など

大学蔵書総冊数

区分	計	板橋	東松山
	和・洋書別	382,377	308,683
和	289,286	224,156	65,130
洋	93,091	84,527	8,564

昭和58年3月現在

大学雑誌受入数

区分	計	板橋	東松山
	和・洋書別	4,287	3,463
和	3,505	2,721	784
洋	782	742	40

(昭和57年度)

土地・建物関係

用途別		面積	土地 (㎡)	建物 (㎡)
合計			1,955,998	75,042
大 学	小計		264,164	59,021
	校舎等		171,658	51,020
	運動施設		91,663	5,561
	その他		843	2,440
第 一 高 校	小計		5,004	4,644
	校舎等		2,709	4,644
	運動施設		2,295	0
	その他		0	0
附 属 青 桐 幼 稚 園	小計		1,773	937
	校舎等		923	937
	運動施設		850	0
	その他		0	0
大 東 医 学 技 術 専 門 学 校	小計		5,496	4,653
	校舎等		1,371	2,979
	運動施設		3,017	145
	その他		1,108	1,529
そ の 他 の 土 地 建 物	大東文化会館		1,431	1,374
	孀恋セミナーハウス		(64,305)	4,413
	北海道所有地ほか		1,678,130	(152)

昭和58年3月現在

※ () は借用土地建物を外数で示す。

現況 卒業生数

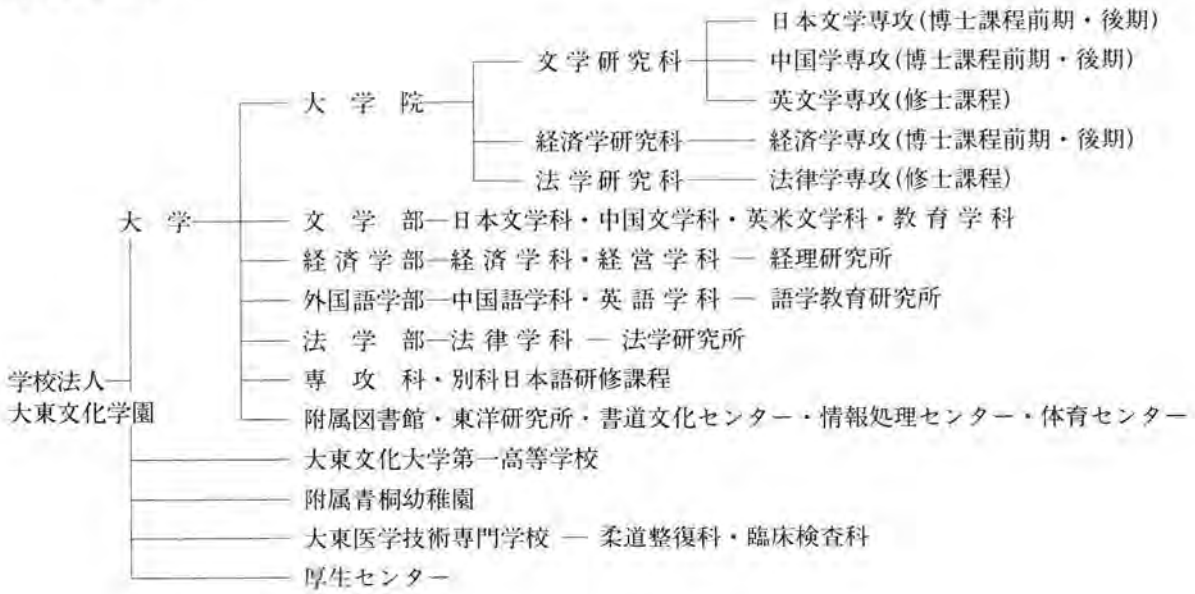
昭和 (春)	期	学院卒業生数(高等科進学者を含む)								小計	累計
		高等科	本科	高等科 進学者							
2	1	15	53	内(17)						68(17)	68 (17)
3	2	8	56	(14)						64(14)	132 (31)
4	3	21	59	(26)						80(26)	212 (57)
5	4	16	38	(14)						54(14)	266 (71)
6	5	24	39	(7)						63(7)	329 (78)
7	6	27	50	(12)						77(12)	406 (90)
8	7	33	52	(8)						85(8)	491 (98)
9	8	22	48	(14)						70(14)	561(112)
10	9	23	60	(11)						83(11)	644(123)
11	10	16	53	(9)						69(9)	713(132)
12	11	24	55	(13)						79(13)	792(145)
13	12	20	39	(9)						59(9)	851(154)
14	13	15	30	(12)	聴講 修了者 (20)					45(12)	896(166)
15	14	14	42	(13)						56(13)	952(179)
		高等科	第一部	第二部	第三部					高等科進学者差引実数	773
16	15	16	24	19	40					99	872
17	16	15	28	40	76					159	1,031
18	17	22	15	33	53					123	1,154
19	18	11	34	45	78					168	1,322
20	19	26	40	67	115					248	1,570
21	20	7	27	26	51					111	1,681
22	21	6	22	30	61					119	1,800
23	22	1	40	36	74					151	1,951
24	23	7	20	30	67					124	2,075
25	24	3	24	36	80	第四部				143	2,218
26	25	7	20	44	83	115				269	2,487
昭和 (春)	期	大 学 卒 業 生 数								小計	累計
		日 本 文学科	中 国 文学科			政 学	経 科				
28	1	14	3			50				67	2,554
29	2	4	3			39				46	2,600
30	3	8	4			62				74	2,674
31	4	14	4			70				88	2,762
32	5	12	10			45				67	2,829
33	6	20	3			27				50	2,879
34	7	18	16			37				71	2,950
35	8	47	20			38				105	3,055
36	9	46	31			42				119	3,174
37	10	30	29			21				80	3,254
38	11	36	34			25				95	3,349
39	12	47	25			37				109	3,458
40	13	38	30			53				121	3,579
41	14	74	23			131				228	3,807

現況 卒業生数

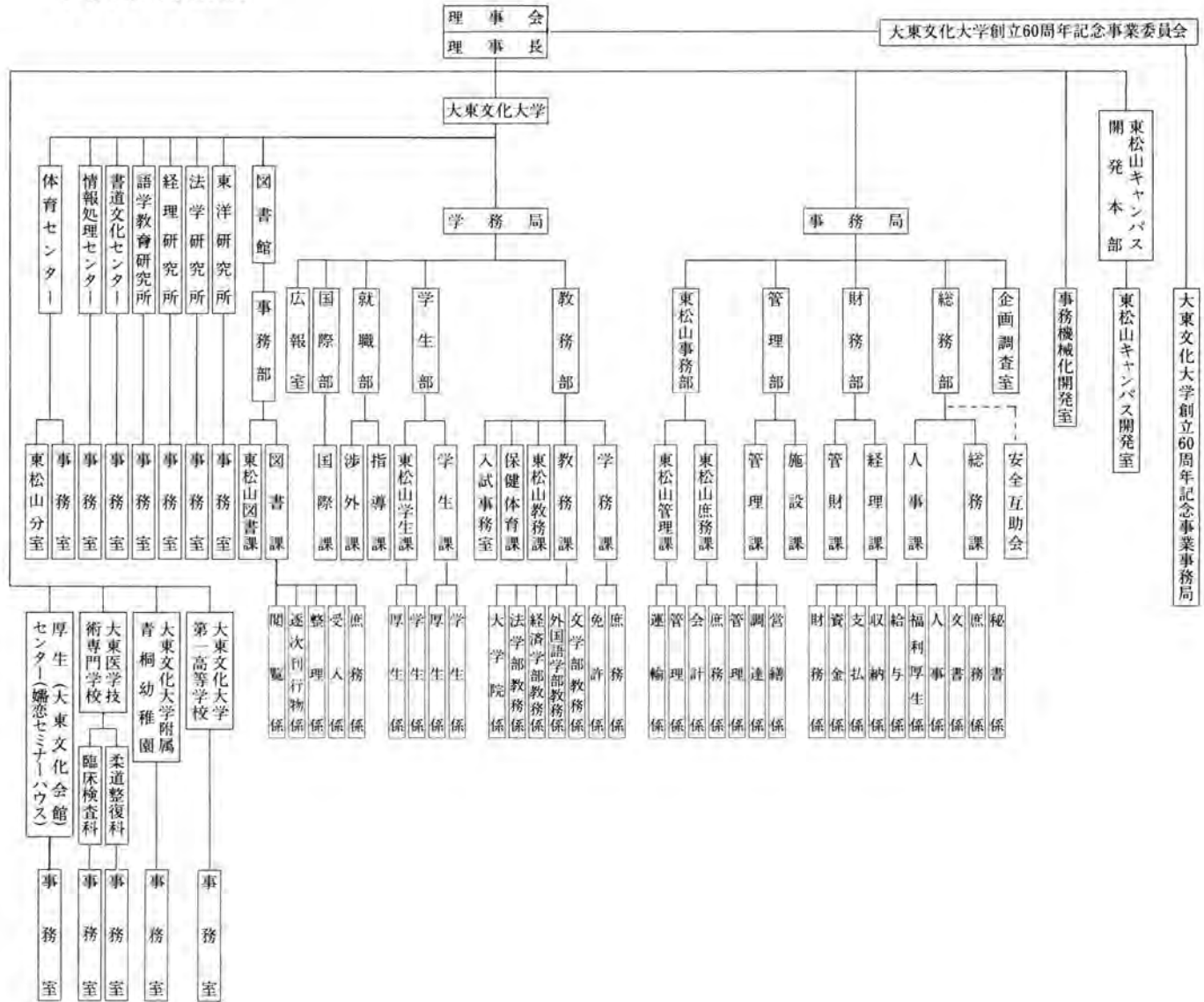
昭和 (春)	期	大 学 卒 業 生 数									小 計	累 計
		日 本 文学科	中 国 文学科			經 済 学 科	經 营 学 科					
42	15	106	30			238	84				458	4,265
43	16	103	32			207	69				411	4,676
44	17	210	70			369	158				807	5,483
45	18	321	90	英 米 文学科		670	288				1,369	6,852
46	19	348	103	77		788	319	外 国 語 科			1,635	8,487
47	20	392	120	84		760	472	29 中 国 語 科	英 学	語 科	1,857	10,344
48	21	377	116	81		727	494	16		49	1,860	12,204
49	22	378	97	68		772	477	17		52	1,861	14,065
50	23	399	135	48	教 育 学 科	719	468	24		76	1,869	15,934
51	24	382	156	82	34	590	411	59	106	法 学	1,820	17,754
52	25	344	156	70	87	582	376	38	107	274	2,034	19,788
53	26	342	122	85	99	594	349	63	114	349	2,117	21,905
54	27	379	187	130	81	626	368	66	170	419	2,426	24,331
55	28	397	186	145	105	568	392	81	151	404	2,429	26,760
56	29	339	192	135	111	643	404	109	170	467	2,570	29,330
57	30	338	161	129	149	442	287	76	143	288	2,013	31,343
58	31	291	130	121	124	400	291	94	138	268	1,857	33,200

現況 組 織

学園組織



学園事務組織





上条周一（信山）卒業生



大木遠吉初代会頭



平沼騏一郎初代総長



大正13・2・11 大東文化学院開院式。大木会頭祝辞



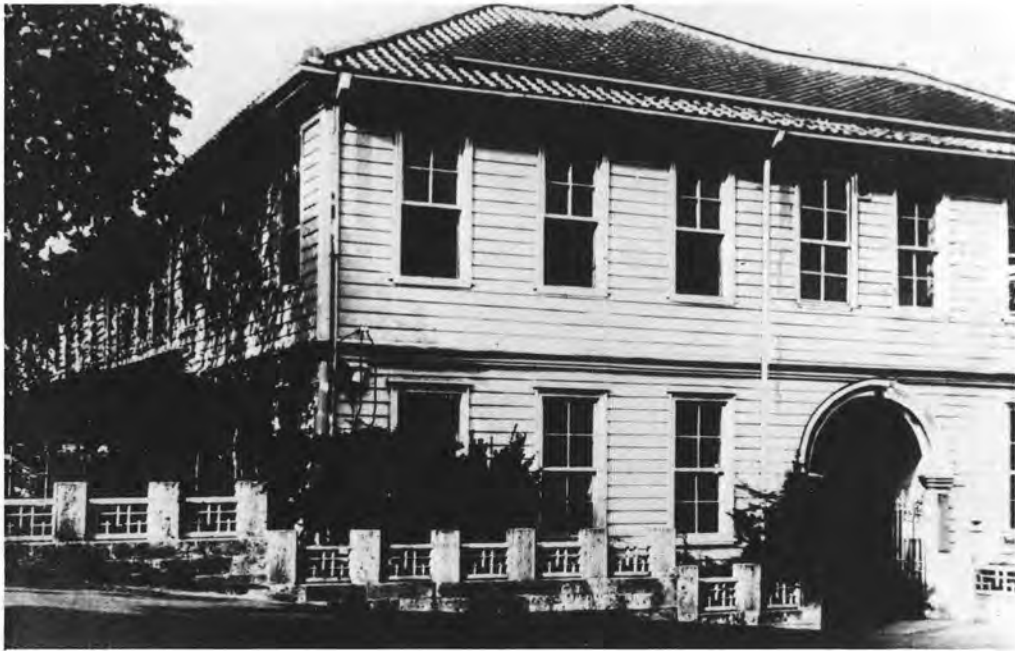
大正12・2・10 東京日日新聞（毎日新聞）に大東文化協会発会式の模様が掲載



創立7周年に漢詩を草し、昭和7年10周年記念式典で学院歌に制定、校旗を披露



九段校舎期 1923~1941



九段校舎正面（靖国神社南側）

大正12・11 九段の地に校舎を設置、12月第一期入学選抜試験を実施し翌年2月にも募集。国庫補助金のことと関東大震災とのからみで変則的なものとなった。高等科21名本科60名のほか聴講生が入学し少数精鋭の教育を開始。スクールカラーの深緑と襟章のマークは写真左の櫓に由来



大正13 榎原神宮前

入学式直後に行なわれる明治神宮・6月初旬の伊勢神宮参拝は独特の行事で、旅費はすべて学院負担。16年頃まで続けられ、後には二泊三日の伊勢神宮のみとなる

昭和2 加藤繁博士の史記輪講

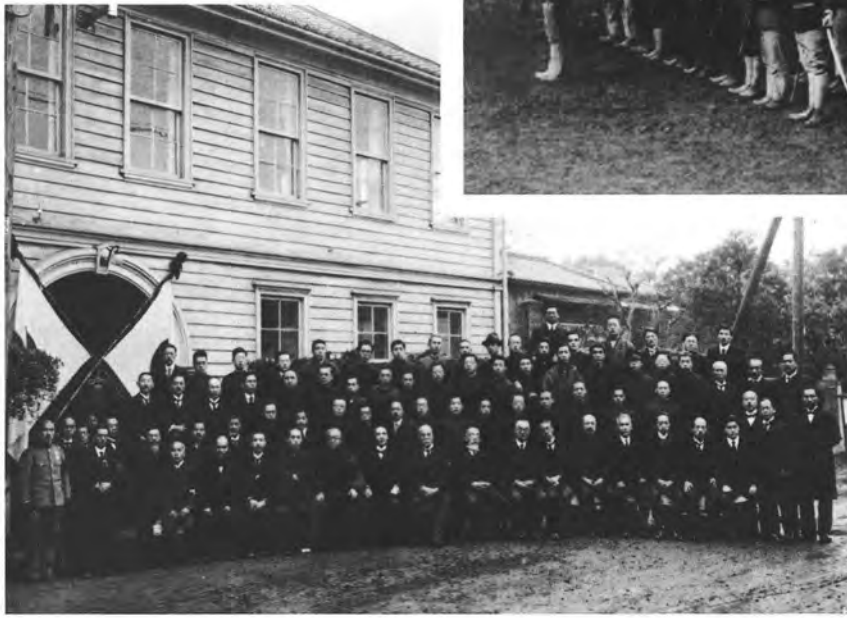


教授陣の寄せ書き

塩谷温（詩経）、小柳司気太（老子・墨子）、岡田正之（書経）、古城貞吉（楚辞・礼記）、内野台嶺（荀子）、加藤繁（史記）、飯島忠夫（孟子）、近藤正治（清文評註読本）、北聆吉（論理・心理）、諸橋轍次（春秋左氏伝）らで、（ ）は当時の担当科目



昭和2・3・8 高等科15名
本科53名の第一期卒業記念



昭和2 近衛第一聯隊営庭での軍事教練

大正14 中学・師範・高専に軍事教練が課せられ、昭和2年には金融恐慌がおこり、さらに大正デモクラシーからファシズムへのきざしをみせる
第一期高等科卒業生13名に高等教員漢文科免許状、本科卒業生36名に中等教員漢文科免許状を下付



昭和2 秋季弁論大会が開催。学生活動も活発



漢籍・和装本でうまる図書館



秋季剣道大会。教科「武科」には教練・弓道・剣道が課せられていた



學生歌

Moderato

兒玉龍夫作詞
藤田真作曲

一 大東死すとも悔はさず
萬里を漂はれど
朝百練の魂を練り
雪の舞に笑答奉

二 理想の道は清く
亞細亞に伸ぶ水手服
使者一月の道は
史上に幾と美名は

三 仁義を説くは先人の
勇に勵むて武士道
國語を説くは先人の
正氣を説くは青年の

外國神社をわが心
大東文化の源泉に
當るべき魂を練る

朝の暁を青年の
世界を拓く力あり
海に伸ぶ心あり

徳の足跡を
正氣を説くは青年の

5-4 3-2 1-2 3-2 1-2 3-0 1-2
4-3 2-1 3-2 1-2 3-2 1-2 3-0 1-2
1-4 2-3 3-2 1-2 3-2 1-2 3-0 1-2
1-1 1-2 3-0 2-1 3-1 2-1 1-2 3-1
0 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
5 4 3 3 3-0 4 2 1-0 2 2 5 2 1 1
4-4 4 3 4 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
2 1 2 3 1-0 1 1 1 1 3-0 3 2 2 2 1
7-1 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
5-0 2 1 1 1 1 3-0 3 2 2 1-0
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

昭和4 自然発生的に誕生。23年に廃止となるが、今日なお歌いつがれる

大正14 比較研究部の企画で、海外活動誌として英仏独の三カ国語による「エックスオリエンテ」を創刊。創立60周年記念を迎え復刊することになる



昭和8 亜細亞部と弁論部合同全国遊説へ東京駅前

ダルマストーブを囲み談笑



有志の輪読



最寄り駅・中央線飯田橋と登校の学生



学生会の運動部では剣道・弓道・柔道がさかん。時局を反映し後に射撃部が正式に認められる



「大東美術」「大東吟社詩」が発刊。詩道部の添削。前列左2人日土屋竹雨・中央が国分青崖

昭和7 5・15事件、満州国承認
などがあり、時事研究会も熱心に



昭和9 大学・高等専門学校による書道連盟発会式。翌年は書道部展覧会を開催するなど「大東書道」の礎となる





昭和7 創立10周年記念式典を日本青年館で挙行。初代理事長八代会頭、4・5・9・12代総長歴任の鶴沢総明博士講演



來聴 思想問題大講演

●十月十三日(日)三時半・於(神宮苑)日本青年館

一 東洋思想と現代の教育 章博士
 一 大國民の思想 鶴澤博士
 一 王道政治の理想に就て 鶴澤博士
 一 大東の意義 章博士
 一 挨拶 山本悌郎氏
 一 挨拶 加藤政助氏

主催 大東文化學院
 協賛 東大東文化會
 後援 日本青年館

（念記年周十創立）

大東文化學院 東大東文化會

アトラクション「観世右近」とポスター



記念行事は研究部が中心となつて年間を通して行なわれた。中山久四郎博士の「清代経学史」



諸橋轍次博士「唐代経学史」講演

「大漢和辞典」の編纂には学院生の功績は大きなものがあつた。編集室「遠人村舎」での院生



昭和9 東京朝日新聞（朝日新聞）に学生募集連合広告が

大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校
大東文化學院	立教大學	東京醫科大學	東京外語學校	東京理學學校	戸板義塾學校



昭和11 書道部の互選会



熱心に臨書に打込む



昭和12 学生総会



2・26事件について盧溝橋事件、戦時体制への移行の中で演習。何故か自転車が緊迫感をやわらく



剣道部合宿寸描



遊びもさかん。当時の浅草寸景



池袋前期 1941～1946



昭和16・2・8 池袋校舎に移転。3月開校記念式を行なう



学生募集ポスター



前期池袋校舎正門

九段校舎から池袋校舎へ

九段校舎は明治時代の建築であることと、13年からの三部制施行による学生数の増加、加えて国庫補助が年々減額20年間住み慣れた九段を後に池袋の新校舎へ移転。前期池袋時代となる



昭和16 華語研究会が日華学生交歓会を開催

国民学校令が公布され、学校報国隊結成や大日本青少年団が結成される16年。19年4月から20年3月まで、21期の1・2・3部1年生は昭和電工へ

隊國報 徒學
場工崎川工電和昭



18年の学徒出陣、19年のB29東京初空襲、中等学校以上の男女学徒は勤労動員にかり出される



昭和19・3 大東文化学院専門学校と改称。校庭で新入生在校生の顔合せ



昭和16 下駄の音を注意され



外食券を手に

昭和19 軍事講習と壮行会
学友は次々に戦場へ



渡部緑村を講師とした吟詠部



服装が違うだけで今日とかわりない下宿寸描

青砥校舎期 1946~1949



昭和20・12 繰上卒業。酒井忠正総長邸中庭玄関前で池袋移転からわずか4年目で東京大空襲により焼失。20年5月から12月まで、同邸で授業再開。終戦後は復員学生やうで収容不能となり、青空授業ともなる。もともと国民初等科を除く学校授業は一年間の停止を決定している
21年2月葛飾区の青砥校舎に移転



青砥校舎正門。日本国憲法が公布された21年、講演ポスターが当時を物語る

「青砥の里」で運動会。
パンならぬイモ食い競争



昭和21 青砥校舎。それは国策会社の寮と工場跡であった

昭和22 以文会が書画展を開催。灯をともしつづけた



学寮「志道寮」。24年の後期池袋校舎移転と共に廃止、南寮のみ残る



昭和20の進級試験。毛筆使用の伝統は守られている
昭和19頃か。名残りをみせる伊勢旅行。学帽は旧帝大型



冊数・二眼レフと旧式な電灯が現在と違う下宿寸描



初回の寮祭と校名改称

戦後のインフレのなか「南寮」の寮祭。附近の子どもたちと共に精一杯の楽しみを
23年に新制高校・新制大学制度が発足、5月校歌が廃止。翌年の4月校名は東京文政大学と改め、池袋新校舎に復帰



昭和24 青砥校舎をあとに

池袋後期 1949 ~ 1961



昭和30 池袋校舎正門と図書館



昭和27 池袋校舎

「大東文化大学」に

昭和26・2 校名を文政大学と改め、27年の池袋校舎は校地2031,5坪、校舎等建物273,00坪 図書23,727冊であった
 学部学科組織は文政学部～日本文学専攻・中国文学専攻・政治経済学専攻の一学部三学科
 校名については同窓・在校生の強い要望から28年3月、「大東文化大学」に復す。新制大学一期生を送り出す時でもあり、幾変転の結果、卒業証書名は「大東文化大学」となる



昭和27 臨時学生総会

戦後復興期の27年頃。学生服が主流の授業風景





政治経済研究部による講演会
壇上は戸田武雄教授



答辞・送辞



新入生歓迎会。黑板に文政大学と書かれている

昭和27 新制大学第一期卒業記念撮影。証書には晴れて「大東文化大学」と





新校歌を制定

昭和28 経済的自立をめざす成長期ではあるが、何も無い。知恵をしばって形ばかりの学祭(体育祭)を開催。創立30周年を迎え、校歌「流れはとおし……」を発表



昭和31 大学四期生88名の卒業式。卒業生数は34年まで二桁



芸能祭(今日の大東祭)

芸能祭 一番組

一 幼児唱歌 附 幼稚園児
 二 学生歌六種合唱 在校生
 三 提琴独奏 佐藤 昭
 四 鼓 大島 小伯 磯
 五 西面相 松の 小 鶴
 六 尺八独奏 松村 博
 七 八長 才 眼 谷 美 登 外 三 名
 八 九万 才 松の 家 彌 安 三 名
 九 十 淨 酒 理 桑 竹 野 重 司
 十 土 八 才 力 独 奏 末 川 定
 十一 土 日 舞 砂 川 豊 三 名
 十二 土 善 人 湯 芸

古抽選会(各組に折った)



大学に隣接して、認可までの暫定措置として幼児部を置き、31年に文政幼稚園を開園。26年頃の園舎と卒園記念



板橋校舎期 1961~1973

飛躍発展の地・板橋

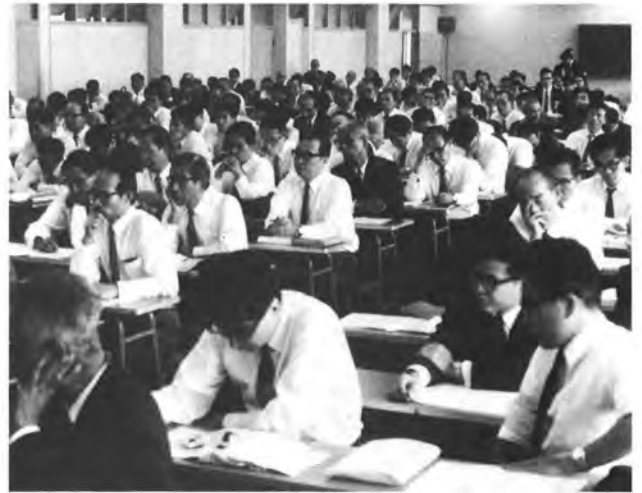
創立40周年を期して「単科精鋭主義から多角精鋭主義に転換すべし」の多数意見から、振興計画がたてられ36年8月、現在の板橋へ移転
併設の大東柔道専門学校は柔道整復科に加えて衛生検査科を増設し、校名を大東医学技術専門学校と改め、大東文化第一高等学校設立認可。翌年の37年、大学は文学部・経済学部の二学部三学科、38年は四学科となる



昭和36頃の空撮。田畠で囲まれ、管理棟・図書館などをあいついで建設し、41年の校舎兼体育館を落成し、一次計画を完了



管理棟



本学が中心となって漢文存続運動を展開。43年会場校となり、20回日本中国学会・全国漢文教育研究大会を開催



70年安保前年の44年 大東祭の講演にも盛込まれる



地下鉄都営三田線が開通。西台駅からみえた本学



ひとたび風吹けば通称「大東サバク」となる。授業のあいまに学生さんの樹園作業が



昭和42 埼玉県東松山市に東松山校舎を建設し、教養課程を移設

昭和48 創立50周年記念式典
発展の一途をたどるこの期に、式典と
50周年記念館の落成式をあわせ挙行



一つの象徴でもある旧制高校の寮歌祭。例年本学は参加



外務省から異例の補助で支那視察旅行を昭和4以来5
回ほど行なったが、その関係もあって、50周年では孔子
77代直系の孔徳成氏による特別講演を行なう



東洋研究所のほか、44年書道文化センターを設置。学内の書道教科
の充実はもとより、書道公開講座・全国展など対外的にも成果を上
げ、10周年を祝す54年に書きぞめ大会を開催し、以後5回を数える



昭和51 大東文化会館竣工。会議室や宿泊施設をそなえている



昭和50 群馬県吾妻郡嬭恋村にセミナーセンターを新設。研修厚生施設として学生に開放



大学に隣接の第一高等学校
大東医学技術専門学校



昭和47 附属青桐幼稚園を設置し開園



集





昭和55 中国・北京外国語学院との間で、教員・研究員・学生の交換研修を図る

新時代に対応する人材の育成のためにも、海外語学研修を行ったり、海外の大学と交流協定を結ぶなどしている



昭和57 オーストラリア・グリフィス大学との交換留学生制度に調印



板橋キャンパス

点 描 Ⅲ



さらに大きく変貌しようとする
今日の東松山キャンパス



空からの板橋キャンパス

長期事業計画の中で、60周年を迎えて東松山キャンパスは一段の広がりを見せようとしている。それは優れた教育環境で名実ともに備わった学問の府を求めているからにほかならない

編集後記

- 人間でいうと“還暦”にあたるこの60年。やはり一つの段階にきていることを実感した次第です。
- 50周年で「大東文化大学五十年史」(A5判1122頁)を発売していることから、本年史はその圧縮史とし、しかも“目でみる60年”とするまとめ方を採りました。
- とはいえ、年代区分では議論沸騰。結局、戦災などで校舎を移転せざるを得なかったことや、それがきっかけとなって大学も変貌してきたので、校舎の所在地名を主題に整理。
- 戦災など二度とあってはならないし、現板橋・東松山校舎を中心として、より充実した教育環境を構築することへの努力に意を新たにします
- 卒業アルバムは勿論、諸先輩の手を煩わし整理箱から褐色に変わったスチール写真を探し出して頂いたり。「年史編纂室」の誕生と共に、そうした貴重なフィルムのすべてを保管させて頂くことにします。そして編纂にあたっては、学内外の多くの方々にご協力を賜わり、併せて厚くお礼申し上げます。

昭和58年8月25日

年史編纂委員会

写真資料提供

毎日新聞社・朝日新聞社・大修館・小学館・UPI・WWP

大東文化大学 創立60周年記念「軌跡」

昭和58年9月20日発行 保存版

発行者 学校法人 大東文化学園

大東文化大学

編集者 年史編纂委員会

〒175 東京都板橋区高島平1-9-1

大東文化大学広報室内

☎ 03 (935) 1111 (代)

印刷所 トーコー印刷株式会社



